

広報
みずまき

3
月号

'06

MIZUMAKI

No, 845

<http://www.town.mizumaki.fukuoka.jp/>



特集「まちの逸品」

びわ、酒、イカ、味噌、そしてにんにく
ぜんぶ、うまさうやん。

ま ち の 逸 品

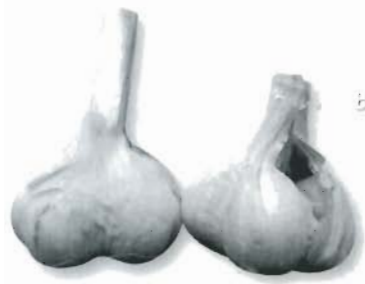
excellent

遠賀郡・中間市
1市4町合同企画

野坂時夫さんときんぐにんにく

水巻

excelled



きんぐにんにく

阪神大震災からゆめ育土

「倒壊した道路や建物、たくさんの方が人、それはもう言葉にできないような壮絶な光景でした。いまでも当時のことを思うと胸が痛みます」

11年前の阪神大震災のときに、ボランティアとして現地で活動した野坂時夫さん（水巻町商工会副会長）はそう話します。

「そして空は煙だらけでした。それを見たときに自分も自然のため、環境のために何か出来ることは無いかなと考え始めたんです。その後、そのときの気持ちを実行に移すため、解体木くず限定の産業廃棄物処理を請け負うようになりました。」

「当時はダイオキシン問題

が大きな社会問題になっていて、産廃処理というときでみんな顔をしないときでしてね、でも遠賀町尾崎の方々の深いご理解のおかげで焼却炉を建設することができました。そのうちに国交省から河川敷の刈った草を引き取ってくれと依頼がありまして、焼却処分するだけでなくて、それを何かに利用できないかと考えて出来たのがゆめ育土なんです」

ゆめ育土とは小さく破碎した草に発酵促進剤を混ぜて1年半から2年ほど発酵させて作った土壌改良材。肥料や連作で土がやせてしまったのを元気にする効果があります。

きんぐにんにくと町おこし

環境のために考え出したゆめ育土。その過程で野坂さんは大きな出会いをします。

「今から4年くらい前になるんですが、環境問題をおして日本樹木リサイクル協会の副会長で木材会社の社長の飯森さんと出会ったんです。山口県の方なんですけどね、その飯森さんがきんぐにんにくを作っていて、おっこれだっと思ってましたね」

当時、町の商工会では町おこしと次代を担う経営者の育成のために「チャレンジシヨ

ップ夢工房」と「農産物直売センター」を町内に作ろうと計画をしていました。でも、「水巻町にはこれといった特産品がないでしょう。水巻の夢工房に行ったらこれを買えるっていう目玉が無いんです。だから、ゆめ育土を使っ

てきんぐにんにくを作る、そしてそれを夢工房で売れば、これはいい町おこしになるかもしれないと思いました。一日勝負の野菜と違って、にんにくは保存もきくし加工もできる、色々と応用ができますからね」と野坂さん。そこで、野坂さんはきんぐにんにくを作るために、元々の生産者の飯森さんと話しをしました。

「飯森社長と私とは環境問題についての考え方が同じで、話しをしているうちにとても仲良くなりましたね、きんぐにんにくの話をしたときも快く承諾してくれたんです」

こうして4年前から野坂さんのきんぐにんにく作りと町おこしが始まりました。

だんだんと広まるきんぐにんにく

にんにくの植え付けは10月中旬ごろ、収穫は6月上旬です。現在、商工会女性部の人たちが、下二の畑など約九百坪で栽培しています。昨

年は2トンラックいっぱいほど収穫できました。「きんぐにんにくを初めて見た人はビックリしますよ。まるで玉ねぎみたいってね」野坂さんはうれしそうに話します。

「今は商工会女性部や、いも娘会といった人たちが、このにんにくを使ってドレッシングや味噌、しょうゆなどを作っています。お中元などでも東京や岡山から注文が入ってきていますね。でも、このきんぐにんにくでの町おこしはまだ始まったばかり。いつかはきんぐにんにくといえは水巻町と言われたいですね。まあ商売的には採算が合わないですがね」と笑う野坂さんの顔はとても楽しそうでした。

●問い合わせ 水巻町商工会
☎201局7551番



農産物直売所（水巻町頃末北）

